



多くの市民の皆さまから、市の予算を使って誰も乗っていない路線バスを走らせるのはもったいない

最後に 10年後の自分のために

多くの市民の皆さまから、市の予算を使って誰も乗っていない路線バスを走らせるのはもったいない行為です。しかし、路線バスの便数や路線を減らせば、バスの運転手の雇用、ひいてはバスの運行事業者を失うことにつながっていきま

しかし、国東市民の約半分にあたる13,000人が、年に1回でも路線バスを利用すれば、5,980万円※1の

市の負担が増えるため、補助金額が減少傾向にあるため、市の負担が増えることが予想されます。

※1 路線バス利用者の一回の平均運賃の460円で算出



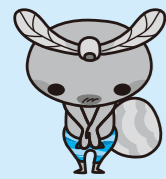
増収となり、市がバス事業者に交付している補助金を賄うことができます。これはあくまで計算の上でのお話ですが、一人ひとりが「使ってみよう」という気持ちになり、行動に移すことで、私たちの未来のおでかけを変えることができるのです。



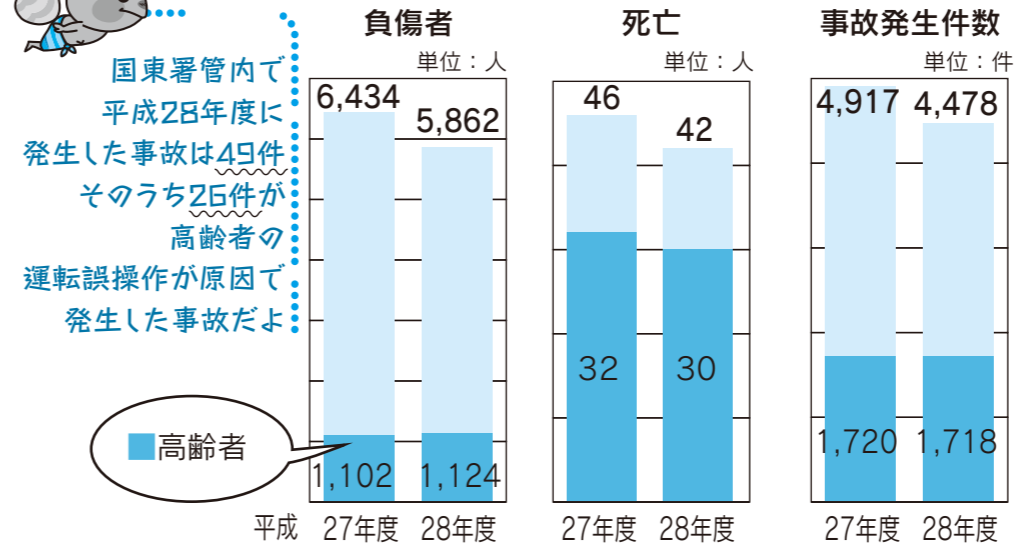
隣保館でコミュニティバスを待つ皆さん

アンケートのご協力をお願い

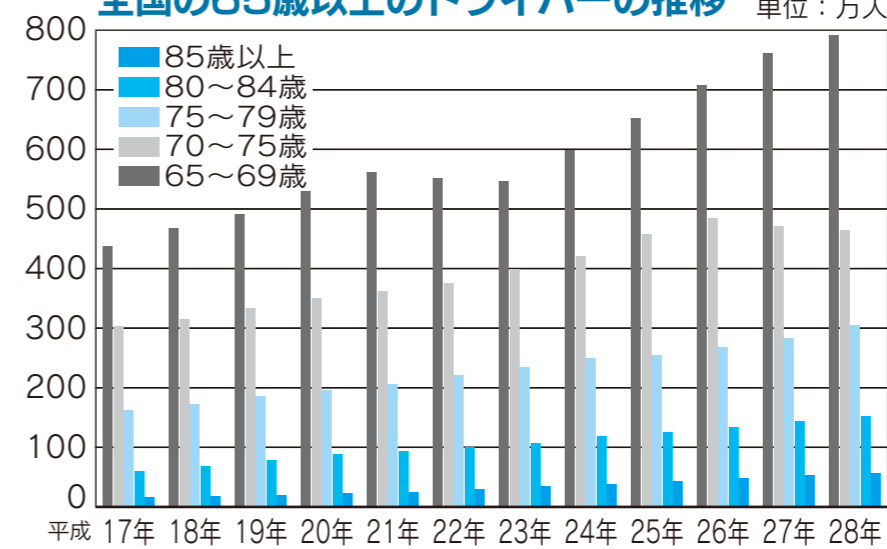
市では適宜、路線バスやおでかけ号が運行している地域や利用者を対象に、聞き取り調査を実施しています。皆様から頂いたご意見は、これからの市の交通計画を立てるための参考にさせていただきます。ご協力をお願いします。



大分県内の高齢者運転者による事故の状況



全国の65歳以上のドライバーの推移



全国で75歳以上の運転免許証を保持している人が多いんだね。ちなみに、平成29年11月1日現在で大分県では、75歳以上で運転免許証の保有者は、64,008人 全体の割合では8.2% 国東署管内では、75歳以上で運転免許証の保有者は、2,781人 全体の割合では13.3%だよ。やはり県平均を上回っているね。

今後、公共交通の必要度は、どうなっていくの？

65歳以上の運転者が年々増加傾向にありま

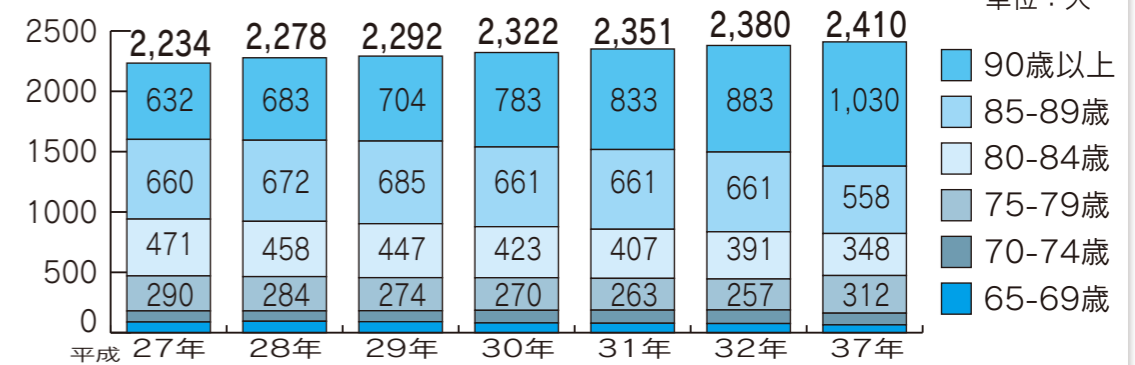
的に高齢者の運転免許返納を促す動きが出てきています。

- ① 臨時認知機能検査・臨時高齢者講習
- ② 臨時適性検査制度の見直し
- ③ 高齢者講習の合理化・高度化

以上のような制度により高齢者にとって車を運転しづらい環境になっていきます。



国東市の認知症高齢者数の推移



資料:人口推計を基に認知症有病率(厚生労働省認知症対策総合研究事業(H25.3月報告))で推計

※この数値はあくまでも推計値であって、実数値ではありません。

このような状況を考えると、今後運転免許証を返納する動きが加速していくかもしれないね。運転できなくなった人が、家族や近所の方に送り迎えを頼めない状況になった場合、公共交通の重要性が高まるのではないかな

